

# 公 民 [ 倫 理 ] ( 100 点 50 分 )

2006 年 10 月 23 日 ( 月 ) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4 組

K.Kataoka © 2006

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - 学年、組、名前を記入する。
  - 学年、組の該当個所をマークする。
  - 出席番号をマークする。(10番以上は10の位と1の位の2カ所)
  - 男女の欄をマークする
  - 1.2.3枚目のところはマークしない。
  - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
  - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文章を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 1 2 ) に答えよ。( 配点 30 )

中国思想の源流が形成されたのは、紀元前 12 世紀に黄河流域に進出した周王朝の時代である。周は [ 1 ] が確立したとされる封建制を基盤とし、天子と諸侯は血縁関係で結ばれていた。周の支配は、(a) 天の祭り や血縁関係における身分秩序を定めた礼を基礎とするものであった。

紀元前 8 世紀にはいと、周王朝の勢力は次第に衰え、春秋・戦国時代がはじまった。諸侯は富国強兵策をとり、国内外から身分を問わず有力な人材を求めた。この動きに答えて登場した思想家たちを (b) 諸子百家 という。その中でも、長く後世に影響を及ぼしたのが、孔子・孟子を代表とする儒家と、老子・莊子を代表とする道家の教えである。

春秋末期の乱世に小国、魯に生を受けた孔子は、外には礼によって、失われた秩序を回復し、内には人に接するに [ 2 ] をもってすべきことを説いた。こうした彼の思想に共鳴する人士がその門に集まって、ここに儒教教団が発生する。孔子の死後門人は各地に分散して教勢を拡大していったが、それに刺激されて (c) 墨家・道家 等の諸子百家が継起する。儒家は最有力学派として百家に対抗しつつ、あるいはその影響を被りながら、しだいに展開を遂げていった。

この間に傑出したのは孟子と荀子である。(d) 孟子は性善説によって孔子の倫理説を内面的に深め、また [ 3 ] 政治を唱えて孔子のいう徳治に具体案を示した。次に (e) 荀子は、人は生まれつきのままでは善になりえないとして礼 (社会的規範) による拘束を重視し、また客観的な教学の整備に努めた。『書経』『詩経』をはじめとする経書は、荀子を前後するころに (f) 五経のすべてが出そろうが、経書の学習を必須として教学の柱とすることは荀子に始まる。

儒教の国教化は前漢のはじめ、前 136 年に五経博士の置かれたときをもってはじまるが、当時の儒教はすでに五経の学習を中心とするものとなっていた。儒教はつねに先王の道を称し、堯舜禹湯文武を聖王として仰いでいたが、発達した儒教は、孔子の教えの淵源はまさにこれらの聖王にあるとし、五経こそは直接に先王の道を記すものであると考えたことから、孔子の言行録である『論語』よりも五経を尊重するようになったのである。しかしもともと難解である五経を前にして、これ以後の儒教は、五経の訓詁学 (注釈学)、すなわち「経学」として展開することとなった。

宋代に入ると、煩瑣にして空虚な字句注釈に陥った儒教の現状に対する反省から革新的な気運を生じた。北宋に始まり南宋の (g) 朱子によって完成する宋学 (朱子学) がそれであって、五経にかわって四書を尊重し、倫理学としての本来性を取り戻す一方、それを [ 4 ] 論的体系のなかに位置づけるものである。天地万物の根元は理である。理は純

粹至善であって、人は本性としてその理をもつが、同時に肉体を形成するについては物質的な気を交える。人は気によってもたらされる自己の欲望すなわち人欲を抑え、本性すなわち天理に立ち返らねばならない。その方法としては、心を純粹専一の状態に保つ〔 A 〕と事物について読書問学をとおして理を窮めることの両面が必要である、というのである。朱子学は初め異端視されたが、士大夫の支持を得て隆盛に赴き、元代には伝統的儒教にかわって国教となり、以後清末にまで及んでいる。

明代になると (h) 王陽明 (王守仁) の心学がおこり、官学化して精気を失った朱子学をしのぐ活況を呈した。しかしその末流には、極端に走って読書を廃し、経書の権威を否定する風潮すら生じた。

問1 文中の空欄〔 1 〕～〔 4 〕に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つずつ選べ。

- 〔 1 〕 ① 周公旦 ② 禹 ③ 舜 ④ 堯  
〔 2 〕 ① 天 ② 徳 ③ 仁 ④ 敬  
〔 3 〕 ① 王道 ② 礼治 ③ 徳治 ④ 霸道  
〔 4 〕 ① 精神 ② 機械 ③ 汎神 ④ 宇宙

問2 下線部(a)に関連して、古代中国の天の思想をあらわすものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔5〕

- ① 天は人間を平等に造り、そこに上下の差別は存在しない。  
② 天の意志を人間は知ることができず、人は天に逆らうことはできない。  
③ 天は自然の至る所に存在し、時に人に崇りを及ぼし祭祀を求める。  
④ 天は宇宙万物の主宰者であり、民の幸福を願い、有徳のものを王とする。

問3 下線部(b)に関連して、諸子百家についての記述として適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。〔6〕

- ① 鄒衍は兵家思想家として、兵法の中にも人生問題一般に通ずる深い思想を展開した。  
② 陰陽家は陰陽の二気に加え、地・水・火・風・人の五行の循環によってあらゆる現象を理論化した。  
③ 秦の始皇帝は儒家思想を採用し、徳治政治の理念によって中央集権体制を確立した。  
④ 韓非子は法家思想家として、厳格な法で人民を規制すべきであると説いた。

問4 下線部(c)に関連して、次の『論語』と『墨子』からの引用文に書かれている、儒家と墨家の「義」・「利」の考え方の違いについての説明として、最も適切なものを下の①～④のうちから一つ選べ。[7]

君子は義に喩(さと)り、小人は利に喩る。[君子は正義に明るく、小人は利益に明るい]  
(『論語』里仁篇)

「義政」とはどうあるべきか。大国は小国を攻めない、大氏族は小氏族を略奪しない、強者は弱者を脅さない、貴族は賤民を蔑視しない、ずるがしこいものは愚者を欺かない  
このようであれば、必ず天を利し、鬼神\*を利し、人を利することができる。三者ともに不利なところはないから、そこで天下に名声が広まり、聖王と仰がれるのである。

(『墨子』天子篇)

\*鬼神：天地万物の霊魂。

- ① 儒家は利を利己的なものとしてとらえているが、墨家は天上天下全体の利としてとらえている。
- ② 儒家は利を個人的な利益としてとらえているが、墨家は集団を利用することとしてとらえている。
- ③ 儒家は義を徳目としてとらえているが、墨家は義を偽善的なものとしてとらえている。
- ④ 儒家は義を身分の高いものの徳としてとらえているが、墨家は弱者の徳としてとらえている。

問5 下線部(d)に関連して、孟子の性善説の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 人間の心にはもともと良知という善悪を理性的に判断する知恵はあるが、善を行う良能という能力はそなわっていない。
- ② 惻隠の心がない者は人間ではない。人間に生まれながらにして四端があるのは、ちょうど両手両足があるのと同じことである。
- ③ みずからの善をよしとし、悪を憎む是非の心を端緒とし、修養することによって義の徳が生じる。
- ④ 四端を養い育て、仁・義・礼・信の四徳が身体に充実してくると何ものにも動じない不動心としての浩然の気があらわれる。

問6 孟子の説く「五倫」の内容として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[9] (2005年センター本試験より)

- ① 父子の孝、君臣の忠、夫婦の礼、長幼の悌、朋友の敬
- ② 父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信
- ③ 父子の親、君臣の忠、夫婦の愛、長幼の序、朋友の敬
- ④ 父子の仁、君臣の義、夫婦の礼、長幼の智、朋友の信
- ⑤ 父子の仁、君臣の忠、夫婦の愛、長幼の智、朋友の敬
- ⑥ 父子の孝、君臣の義、夫婦の別、長幼の悌、朋友の信

問7 下線部(e)に関連して、荀子の言葉として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[10]

- ① これを導くに政(まつりごと)を以てし、これを斉(ととの)うるに刑を以てすれば、民免れて恥なし。
- ② 大道廢れて仁義あり、智慧出でて大偽あり、六親和せずして孝慈あり、国家昏乱して忠臣あり。
- ③ およそ礼儀なるものは、これ聖人の偽により生じて、もと人の性より生ずるにあらざるなり。
- ④ 民のごときは則ち恒産なければ、よりにて恒心なし。いやしくも恒心なければ、放僻邪侈為さざるなし。

問8 下線部(f)に関連して、五経を構成する経書として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選べ。[11]

- ① 春秋    ② 大学    ③ 易経    ④ 礼記

問9 下線部(g)に関連して、朱子の著作として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[12]

- ① 伝習録    ② 四書集注    ③ 中庸    ④ 太極図説

問10 文中の空欄 [ A ] に入る言葉として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[13]

- ① 心齊    ② 居敬    ③ 性理    ④ 禪定

問11 下線部(h)に関連して、王陽明の朱子学批判の内容を説明した記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[14] (1998年センター本試験より)

- ① 理の重視は、理想的な統治を性急に追い求めるあまり、礼の形式を無視することになり、正しい君臣関係を見失わせてしまう。
- ② 理を万物に内在する秩序原理とし客観視することは、人間の心の本性である気は無視し、人間の感情的側面を不当に貶めるものである。
- ③ 理を万物に内在する秩序原理として客観視することは、本来相即している心と理とをことさらに分離し、対立させるものである。
- ④ 理の重視は、もっぱら自己の心を重視することにもなり、それはこの世界の調和と秩序をかえって破壊し、争いを招くことにもなる。

問12 次の『論語』の一節の中で語られている「君子」の解釈として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[15]

子曰わく、学びて時にこれを習う、亦（また）説（よろこ）ばしからずや。  
朋、遠方より来たる有り、亦楽しからずや。  
人知らずして慍（うら）みず、亦**君子**ならずや。

「学而第一」

- ① 官位・官職の高い人
- ② 学問や修養に志す人
- ③ 妻が夫を呼ぶことば
- ④ 徳の高いりっぱな人物

## 第2問 次の文章を読み下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点10）

儒家の思想が積極的に家庭や政治のあり方を教えたのに対して、老子や荘子などの道家の思想は、宇宙の根本原理に立って、社会や国家の束縛を離れた素朴で自然な姿に、人間の本来のあり方をもとめた。

老子は、万物がそこから成長するもの、万物の存在を成り立たせているものを、仮に名づけて道とよんでいる。そして道自体は対象としてとらえられないから、名づけようがないという意味で、無でもあるという。万物は無から生じて無に帰る。この無から有、有から無への運動は、永遠にくりかえされ、すべてのものは変転する。したがって人々が福と思ひ禍と思うものも絶対的でなく、福はやがて禍に、禍もやがて福に転ずるものだと言っている。

それゆえ老子は、道徳や文化などは人間が作為した相対的なものであると考え、儒家の教える道徳はすべて、[ 16 ] としている。われわれに必要なことは、仁・義・礼・智を説くことではなく、仁・義・礼・智のいない社会をつくることであるというのである。ここから (a) 老子は自然と調和した生き方を主張するのである。人生や宇宙をこのようにみる老子にとって、賢明な生き方とは、世俗への執着心を捨て、常に人の下手に出て人と争わず、また、何ごともあるがままに素直に、作為をろうせずに生きることであった。一言でいえば、自然にしたがって生きることをすすめるものであった。

このような老子の考え方をさらに徹底して、(b) 心の平安と自由の境地にいたる方法を説いたのが荘子である。荘子は、功績や名声など自己への執着と分別の心から人間の苦しみが生まれると考えた。そして、こうしたことから自由となり、虚心になって天地自然と一体となる境地に遊び、与えられた寿命をまっとうする人が、賢い生き方の理想とされた。

問1 空欄 [ 16 ] に入る言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 絶対的な天の道にしたがって説かれたものである
- ② 天下を混乱に陥れるために作為的に説かれたもの
- ③ 世が乱れたためにやむをえず説かれたものである
- ④ 本来あるべき姿を理想的に説かれたものである

問2 下線部(a)に関連して、『老子』に描かれる自然と調和した生き方の言葉として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選べ。[17]

- ① 上善は水の若し。水は善く万物を利して而も争わず。
- ② 草木の生ずるや柔脆にして、その死するや枯槁なり。
- ③ 人は地に法り、地は天に法り、天は道に法り、道は自然に法る。
- ④ 政を為すに徳を以てすれば、譬えば北辰のその所に居て衆星のこれをめぐるのが如し。

問3 下線部(b)に関連して、荘子の思想を述べたものとして**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選べ。[18] (2006年センター本試験より)

- ① この世界は、道がおのずから現れたものであり、そこには対立や差別はない。この認識に立ち、一切の欲望や分別から自由になった人が真人である。
- ② この世界は、みちがおのずから現れたものであるので、己の心を虚にして、心身とも天地自然と一体になる境地が理想である。
- ③ この世界は、道がおのずから現れたものであるのに、人間がそれを有用だとか無用だとか判断するのは、自己の価値観にとらわれているためである。
- ④ この世界は、道がおのずから現れたものであり、人間社会の秩序にも道にかなっている。この認識に立った、社会規範にかなう行為が重要である。

問4 次の『莊子』の中の文を読み、その文についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[19]

むかし、莊周夢に胡蝶と為る。栩栩然(ひらひら)として胡蝶たり。自ら愉しみ志に適するかな(楽しんでのびのびしている)。周たるを知らざるなり。俄にして覚むれば(ふと目が覚めると)、則ち遽遽然として周なり(何と自分は莊周ではないか)。周の夢に胡蝶と為りしか、胡蝶の夢に周と為りしかを知らず。

『莊子』内編より

- ① 夢と現実の違いをわきまえることが逍遙遊の境地である。
- ② 意識という人為の力が夢の胡蝶の生命を奪ってしまう。
- ③ 夢と現実の区別はないというのが万物斉同のとらえかたである。
- ④ 上空高く飛ぶ胡蝶の目から見れば地上の様々な色は消え失せる。

問5 道家思想が後の時代に与えた影響に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選べ。[20]

- ① インドの仏典の漢訳の際に道家の用語や概念を使うことがあった。
- ② 道家の陰陽二気説が陰陽五行説を唱える陰陽家に影響を与えた。
- ③ 老子は道教では神格化されて「太上老君」と呼ばれている。
- ④ 荘子の心斉坐忘は禅宗の坐禅に影響を与えた。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問5)に答えよ。(配点10)

アッラーへの絶対服従を重んじ、[ 21 ]をきびしく禁止するのがイスラムの特徴である。イスラム教徒は、(a)『クルアーン(コーラン)』と(b)ムハンマドの言行をあらわした『ハディース』をもとに、シャリーア(イスラム法)に定められた教えに従う。その主なものが、メッカへの礼拝、自発的な喜捨、イスラム暦9月の断食、メッカへの聖地巡礼、信仰告白の(c)五行である。また、アッラー、天使、聖典、預言者、来世、天命の六つを信仰することが根本とされる。

イスラムは、西は北アフリカ・スペインから東はトルコ・イラン・パキスタン・インドネシアまでひろまった。中世のイスラム世界では、キリスト教によってヨーロッパから追放された古代エジプト以来の科学が発達し、その文明の高さはヨーロッパをはるかに越えていた。12世紀以後、ヨーロッパからキリスト教の聖地パレスチナを回復しようとする十字軍の運動が起こり、キリスト教とイスラムの二大宗教が対立し交渉し合う形勢になった。このような歴史的状況にもとづいて、(d)イスラム圏の科学やギリシア思想がヨーロッパに伝えられ、やがてルネサンスの運動に影響を及ぼすに至るのである。

イスラム世界では、今も街に礼拝の時を告げるアザーン(よびかけ)が響き、人々は偉大なアッラーに敬虔な祈りをささげる。イスラムは現代に生きるもっとも強大な宗教の一つである。

問1 文中の空欄[ 21 ]に入る言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 再婚      ② 一夫多妻      ③ 肉食      ④ 偶像崇拜

問2 下線部(a)に関連して、クルアーン(コーラン)についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22](2001年センター本試験より)

- ① 『クルアーン』には、神と、神に選ばれた砂漠の民とが結んだ契約が記されている。
- ② 『クルアーン』は、神の言葉そのものであるとされ、その教えを信じることは六信の一つに数えられている。
- ③ 『クルアーン』は、全てのイスラム法(シャリーア)の根拠であり、世俗と厳密に区別された聖職者の生活を律している。
- ④ 『クルアーン』は、唯一神アッラーが歴代の預言者に伝えた言葉をムハンマドが集録・編纂したものである。

問3 下線部(b)に関連して、『ハディース』に描かれるムハンマドの生涯のエピソードについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① メッカの名門ハーシム家に生まれ、幼児に母を失うが父に愛されて快樂に満ちた生活を保障された。
- ② 彼の誠実な大工の仕事ぶりを気に入った富裕な未亡人ハディースと、25歳の時に結婚した。
- ③ ヒラー山の洞窟で瞑想をしていた彼のもとにジンがあらわれ、2枚の石版に刻まれた神の言葉を受け取った。
- ④ 彼はある夜、天使に連れられて、翼のある天馬に乗り、エルサレムに旅してそこから光のはしごを登って昇天した。

問4 下線部(c)に関連して、イスラームの五行に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。[24] (2001年センター追試験より)

- ① メッカへの巡礼とは、全てのムスリムが可能な限り生涯に一度は行うべきものであるが、これは社会的地位や民族の差異を超えたムスリムとしての連帯感を養うのに役立っている。
- ② ラマダーン月の断食とは、未明から日没までいっさいの飲食を断つものであるが、これは欲望を抑える強い意志や貧者への思いやりの心を養うのに役立っている。
- ③ 礼拝とは、一日に五回、定められた時刻に定められた手順で行うべきものであるが、これは神に対する絶対的帰依を体現し、人間が本来あるべき姿を確認するのに役立っている。
- ④ 喜捨とは、富んでいる者が貧しい者に対して資産に応じた施しをするものであるが、これは神への感謝の心を養い、社会における富の公平な分配をめざすものである。
- ⑤ 信仰告白とは、神は唯一であり、ムハンマドは預言者であると告白するものであるが、これはユダヤ教やキリスト教の神を否定し、イスラームの絶対性を主張するものである。

問5 下線部(d)に関連して、次の文を読んでその中で説明されているギリシア哲学者として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[25]

彼の「著作集」の研究は2～6世紀に最初のピークを迎え、ギリシア語による逐語的な注釈が多数書かれた。以後その研究の中心は東方に移り、9～12世紀には彼の影響を受けた哲学者がイスラーム圏に輩出する。12～13世紀にかけてラテン語訳「著作集」がヨーロッパに伝わって急速に広まり、最初はキリスト教神学と対立したが結局はトマス・アキナスによって神学と調和的にとり入れられて、前にもまして影響力を持つようになった。

- ① プラトン
- ② エピクロス
- ③ エピクテトス
- ④ アリストテレス

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問5)に答えよ。(配点10)

太古の昔から、日本の人々は自分たちがその地に定住するに至ったいきさつや祖神についての伝承をもち、山や川などの創造主やその命名のいわれについての物語を伝えてきた。

〈いわれ〉は物語として語られることによって真実なものになると信じられていた。〈いわれ〉が人々の共有財産として生き生きと語り伝えられていた社会では、人々は〔26〕。

(a)生殖行為によって国が生まれたり、体の各部から五穀が実ったり、動物と人が結婚したりするような神話的発想はここから生じるのである。

各地の王が大和王権の下に統合支配されるに従って、天皇家の系譜と事績や祭祀伝承を軸として、それらの地方神話が重層的に組み合わされて (b)記紀神話が形成されたのである。それは天皇家の支配の根源と王権の正統性を主張する政治的要素の強い神話であるが、固有の神話祭式的構造の下に一つのまとまりのある世界が展開されてもいた。その世界は聖と俗、陽と陰、天と地、中心と周辺といった二元的に対立する範疇によって形成された宇宙観から成り、これに基づいて〔27〕と葦原中国・黄泉国、伊勢と出雲、天津神(あまつかみ)と国津神等々の対照的な分類構成が行われていた。この宇宙観は、王権と在地族長層の政治社会的関係と当時の人々の生活構造を、神話的な形式によって表現したものである。王権と族長層の支配関係は必ずしも一方的なものではなく、両者は〈父〉を同じくする系譜によって結合された擬制的同族関係を構成していた。記紀神話にはこの擬制を生きる歴史的社会に特有の経験がこめられており、そうした社会においてこそ神話は最も有効に機能したのである。

問1 空欄〔26〕に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 自然と交感してそれを敬い、生あるものすべてと一体化して生活していた
- ② 自然に対抗してそれと戦い、生存のために全力を尽くして生活していた
- ③ 自然を受け入れそれを研究し、生活のために役立てる術を見出そうとしていた
- ④ 自然を畏れてそれを祭り、来世での救済を願って生活していた

問2 空欄〔27〕に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 日本国      ② 中国      ③ 高天原      ④ 幽冥界

問3 下線部(a)に関連して、記紀神話でオノゴロ島において国を生んだとされる神々の名として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔28〕

- ① オホクニヌシとスセリビメ      ② イザナキとイザナミ
- ③ アマテラスとスサノオ      ④ アメノミナカヌシとタカミムスヒ

問4 下線部(b)に関連して、『古事記』『日本書紀』にまとめられている神話の特徴を説明したものとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29] (1991 センター本試験より改題)

- ① 呪術的な信仰を否定し、道徳的な正しさこそが神の道であると説いた。
- ② 天照大神を中心に神々を統合し、その系譜を秩序づけた。
- ③ 天皇は現人神であり、誤りを犯すことのない存在であるとした。
- ④ この世の真の姿は、実体のない空虚であるとした。

問5 記紀神話など日本の古神道における「つみ」の概念の特徴についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30] (1992年センター追試験より)

- ① 人間の始祖が犯した道徳的過ちが子孫として人間すべてに及んでおり、この「つみ」の状態から脱するには神の前で悔い改めねばならない、と信じられた。
- ② 悪神が荒れ狂うことで起こる異常な状態が「つみ」であり、それは必ず善神によって元に戻るのだから放置しておけばよい、と信じられた。
- ③ 人間は欲望にしばられた存在として無力な状態にあるが、この「つみ」の状態から脱するには神の慈悲にすがるしかない、と考えられた。
- ④ 道徳的・社会的犯罪と災害や病気が等しく「つみ」であり、人間に外からふりかかるものとされ、儀礼によって清めることができる、と信じられた。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点20)

仏教の公式の伝来は百済の聖明王が釈迦仏像と經典その他を朝廷に献上したときとされる。仏教はいくたびかの迫害をうけながらも、蘇我氏を中心に渡来系氏族が多く居住していた飛鳥の地に最初に根づいた。そして、排仏派の物部守屋滅亡を契機に、摂政聖徳太子の推古朝に、仏法興隆の道がひらけた。太子は仏教に深く帰依し、(a)『三経義疏』を著した。第2条に「篤く三宝を敬え」の有名な文言がある十七条憲法は今日偽斥説が主張されるが、それでも太子の政治思想が、仏教を根幹に置いて、その普遍的な教理思想のなかで国家統一を志向したことは確かであろう。

奈良時代の仏教は国家仏教の性格をますます強めた。官寺を中心に、そこでは学問のほか、国家鎮護の祈禱が盛んに行われた。また、(b)中国で形成された六つの宗派、いわゆる南都六宗が留学僧などによって、この時代に奈良の寺院に伝えられた。当時の仏寺はさながら天皇や豪族の権勢と富を示す大陸文化の坩堝(るつぼ)で、一般民衆の信仰とはかけはなれた存在だった。これにかわって、国家仏教からはずれた立場にあった【A】や道昭や万福、それに官寺の外縁にあった私度僧らが、民衆へ仏教信仰をひろめた。

行き詰まった律令政治の刷新をめざした桓武天皇の平安遷都は、その裏面に奈良の仏教の官大寺経営に費やされる膨大な国費、増大する寺領荘園、加えて教団の腐敗墮落、僧綱制度の欠点などを改革しようとする意図を秘めていた。ここに新しい平安仏教が出現する契機があった。桓武朝の末年、入唐求法して持ち帰った(c)最澄の天台宗、空海の真言宗がこれである。円禪戒密の四種相承を果たして帰朝した最澄の大戒独立の運動は、仏教教理でみると戒律における大乘・小乗の優劣論にすぎないが、歴史的にみると国家権力に緊縛された南都の僧戒を、仏教側の自主的管理に取り戻そうとする僧戒自立の運動だった。

(d)長安の青竜寺の恵果から純粹密教の秘法をうけて帰朝した空海は、嵯峨天皇に重用され、高野山を開創、東寺を給付され、真言宗の拠点を確認した。仏果を得ることは文字や学解によるのではなく、字(真言)・印(印相)・形(曼陀羅)などで表現され、如来の言葉である真言陀羅尼を念誦し、観修することで即身成仏できると説く空海の教えは、彼の南都諸宗に対する妥協的態度や加持祈禱の容認と相まって、貴族や地方の豪族や民衆のなかに急速にひろまった。だが、平安中期以降、末法思想が飢饉・疫病・地震・洪水などの当時の災害現象と相まって人心を強くとらえるようになると、阿弥陀浄土信仰が盛んになった。念仏によって極楽往生を願うこの信仰は、市聖と呼ばれた【B】(e)『往生要集』を著した源信らによって急速に古代末期の社会に浸透していった。

問1 空欄【A】【B】に入る人名の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[31]

- ①【A】行基【B】空也      ②【A】道鏡【B】一遍  
③【A】一遍【B】道鏡      ④【A】空也【B】行基

問2 下線部(a)に関連して、注釈を受けた三経のそれぞれについての説明として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[32]

- ① 在家の長者維摩が仏弟子を相手に大乘の教理を説き、旧来の仏教の固定性を批判して、在家者の立場から大乘の空の思想を高揚した経。
- ② 王女である般若夫人の行う在家女性の説法を釈尊が承認し、一切衆生は煩惱にまともれているが、本性は清浄無垢で如来の本性を備えていると説く経。
- ③ 菩薩の修行の階梯や善財童子の遍歴を描いたところで知られる、歴史上の仏を超えた絶対的な毘盧遮那仏の悟りの境地をそのままに表現した経。
- ④ 仏はただ一つの教えを説いたと言われるがそれは方便で、衆生の在り方に応じた三乗の教えがあることが真理であるとする経。

問3 下線部(b)に関連して、南都六宗を説明する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]

- ① 華嚴宗は無量寿如来の悟りの境地を示す華嚴経の教理を研究する。
- ② 律宗は小乗具足戒を否定して大乘菩薩戒を支持する鑑真によってもたらされた。
- ③ 三論宗は成実宗の偶宗で、無着の唱えた中観派の教えを根本教理とする。
- ④ 俱舎宗は法相宗の偶宗で、世親の『阿毘達磨俱舎論』の教理を中心に研究する。

問4 下線部(c)に関連して、最澄は奈良仏教の救済観を差別的であるとして批判しているが、その「批判」の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]  
(1993年センター本試験より)

- ① 善人も悪人も自己の内に救いの可能性を持ってはいない。仏だけがそうした人を区別なく救うことができる。
- ② 人にはそれぞれの生き方がある。仏の真理は一つだから、信仰があろうとなかろうと救いの道に至ることができる。
- ③ 人はそもそも仏によって平等に創造されたものであり、仏の広大な慈悲の前では区別なく救われる。
- ④ すべての人々が一つの乗り物に乗ってさとりに至るというたとえのように、誰もが仏になれる可能性を持っており、それを自覚し修行すれば仏になれる。

問5 下線部(d)に関連して、帰朝後の空海が真言密教の教理を大成し、人間の心の発展の十の段階をたどり、各宗の教理の優劣浅深を判釈した著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① 『頭戒論』      ② 『三教指帰』      ③ 『十住心論』      ④ 『山家学生式』

問6 下線部(e)に関連して、『往生要集』のなかの言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① 生ぜしもひとりなり。死するもひとりなり。      ② 厭離穢土，欣求浄土。  
③ 直指人心，見性成仏。      ④ 世間虚仮，唯物是真。

問7 法然の言葉として伝えられる次の文章を読み、その趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[37] (2006年センター本試験より)

弥陀如来の本願の名号は、木こり，草刈り，菜摘み，水汲むたぐひのごときものの、内外ともにかけて\*一文不通なるが、称ふれば必ず生まると信じて、真実に願ひて、常に念仏申すを最上の機\*\*とす。もし智慧をもちて生死を離なるべくは、源空\*\*\*いかでかかの聖道門を捨てて、この浄土門におもむくべきや。 (『法然上人絵伝』)

\*内外ともにかけて：仏教の典籍もそれ以外の典籍もともに。

\*\*機：仏の教えに応ずる能力。ここでは「救いの対象となる人」という意味。

\*\*\*源空：法然の別名。

- ① 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは、日々の生活の中で悪行を犯さざるをえない民衆であると述べ、自らも悪行を実践していると告白している。  
② 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは、文字も読めないような民衆であると述べ、経典を読むことなど一切必要としない念仏の功德を強調している。  
③ 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは、労働に励む民衆であると述べ、貴族が特権的に支配する社会を念仏の功德により改革しようとしている。  
④ 阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは、智慧も徳もない民衆であると述べ、一切の学問や修業を捨てて民衆と同化すべきだと説いている。

問8 親鸞の著作として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① 『教行信証』      ② 『選択本願念仏集』  
③ 『歎異抄』      ④ 『一枚起請文』

問9 道元の言葉として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 人々皆仏法の器なり，非器なりと思ふことなかれ  
② 仏道をなろうというは，自己をなろうなり  
③ 仏法には，修証これ一等なり  
④ 照千一隅，これすなわち国宝なり

問10 日蓮が帰依する經典に描かれる仏の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[40] (2003年センター本試験より)

- ① 永遠の生命を持ち、はるかな過去に既に悟りを開いていたこの仏は、仮に有限な人の姿をとってこの世に現れ、釈迦仏として人々のために説法したとされる。
- ② あまねく世界を照らす太陽にたとえられるこの仏は、仏の悟りの境地そのものを仏として捉えたもので、宇宙に充滿してあらゆる仏や菩薩を包摂するとされる。
- ③ かつて法蔵という名の修行者であったとき、一切衆生の救済を願って四十八の誓い(本願)を立て、途方もなく長い間修行を重ねた末、すべての誓いを成就したとされる。
- ④ 釈迦没後 56 億 7 千万年を経てこの世に出現し、釈迦による救済に漏れた人々を救うと予定されている仏で、既に修行を完成して兜率天に待機中とされる。

問題は次のページに続きます。

## 第6問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点20)

日本の儒教は4世紀ころから中国ならびに朝鮮を通じて受容され、近世に入ると日本独自の発展をとげ、日本の政治、経済、社会、文化、教育ならびに日本人の道德意識や心性に少なからぬ影響を与えた。古代の儒教は漢学であったが、中世には新しく勃興した宋学(朱子学)が受容され始める。

近世儒学は漢宋折衷学や禅儒という不徹底な身分からの脱却を通じて成立した。その運動の先頭に立ったのが藤原惺窩であり、その弟子の林羅山、松永尺五、羅山の批判者だった(a)中江藤樹らがそれに続く。その後(b)山崎闇斎の出現とともに、朱子学が本格的に理解され受容され始めた。闇斎の学風は朱熹から李退溪の系譜を引くもので、価値的観点の強い義理の学であり、その弟子浅見綱斎、佐藤直方を通じて[41]学派という朱子学の一派が形成された。

最も独創的なのは古学派で、(c)山鹿素行においては古学と土道との結合がなされ、仁斎においては『大学』『中庸』のテキスト批判によって朱子の四書中心主義の一角が崩され、『論語』を宇宙第一の書として孟子を通じての論語理解という立場に立って、仁は愛であるという考えの下に愛の人間学ともいふべき思想が形成された。(d)伊藤仁斎の学を[42]学という。(e)荻生徂徠においては儒教は政治思想として再確認され、仁斎のように孔子を尊崇するのではなく、礼楽制度をつくった堯舜らの先王こそ聖人として崇拝されるべき人とされ、この先王たちの言行を記した古典を正確に理解することが儒教研究の課題とされた。

国学の源流は、元禄年間の契沖の日本古典研究にまでさかのぼることができる。契沖は真言宗の僧であったが、万葉集の本文を厳密に校訂し、多くの用例から語義を確定し、かなづかい・語法をも配慮した注釈に特色がある。契沖に深く傾倒した伏見の神官荷田春満は、その万葉研究を受けつぐ一方、『創学校啓』の中で、「古語通ぜざれば古義明らかならず、古義明らかならざれば古学復せず」といっているように、契沖の文献学的方法に加えるに独自の復古主義をもってした。この立場は、晩年の春満に師事し、主として宝暦年間に活躍した賀茂真淵にいたって、国学としての最初の体系化がこころみられることになる。

真淵は主著『[43]』を執筆のかたわら、古道・和歌・文章・言語・古文献などの諸学問分野がけっきょくは一つの目標に統合されてゆく構想を提示している。みづから『にひまなび』にいう「神皇(かむすめらぎ)の道」が、その到達点であった。万葉研究から出発した歌のまなびが、このように道のまなびと結びついたところから、国学は本格的に始発する。その真淵学を継承して、国学の大成者となったのが(f)本居宣長であった。

問1 空欄[41]に入ることばとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 護園      ② 崎門      ③ 堀川      ④ 南

問2 空欄 [ 42 ] に入ることばとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 古義      ② 訓話      ③ 古文辞      ④ 古道

問3 空欄 [ 43 ] に入ることばとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 雨月物語      ② 万葉考      ③ 十二支考      ④ 万葉代匠記

問4 下線部(a)に関連して、中江藤樹が説いた孝の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[44]

- ① 仁愛の根底にある自分にも他人にも偽らない純粹な心情  
② つねに天の道とひとつであるために人欲を戒めるつつしみ  
③ 愛敬を本質とする万物を生み出す宇宙の生成原理  
④ 国家も家族であるという観点から忠と一致するとされる臣民の徳

問5 下線部(b)に関連して、山崎闇斎の思想の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[45]

- ① 神が真理の根源であり、仏とは民衆を教化するために神が仮の姿をとってあらわれたものである。  
② 心の内面のつつしみは、外にあらわれた自身の在りようを正しく整えることによってあらわされる。  
③ なにごとにも作為をろうせず、惟神の道に素直にしたがって生きることが理想の生き方である。  
④ 心の内面に先天的にそなわっている良知を窮め、發揮することによって善が実現される。

問6 下線部(c)に関連して、山鹿素行の説く士道の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[46]

- ① 毎朝毎夕、心をただして死を思い死を決すること。  
② 天下の政治を担い、専ら人倫の道を追求すること。  
③ 武芸に励むとともに、学問に励むこと。  
④ 名を重んじ恥を知り、主君に献身すべきこと。

問7 下線部(d)に関連して、伊藤仁斎の説く道の在り方として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[47]

- ① 道はなお路のごとし、人の往来する所以なり。
- ② 孔子の道は先王の道なり。
- ③ それ天道なるものは理なり、性もまた理なり。
- ④ 身をたて道をおこなふが孝行の綱領なり。

問8 下線部(e)に関連して、荻生徂徠による討ち入りを行った赤穂浪士の処分への意見についての記述として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[48]

- ① 主君の復讐を行うことは正義だが、それは藩に属する私論である。私論をもって公論を害するなら今後、法が立たないので切腹を申しつけるべきである。
- ② 主君の復讐を行うことは法への反逆だが、忠臣の道德としては正しい。人倫の道に免じて無罪放免とすべきである。
- ③ 主君の復讐を行うことは正義だが、將軍に対する親愛の情が足りない。仁愛を欠いた残忍酷薄な所業ゆえ切腹を申しつけるべきである。
- ④ 主君の復讐を行うことは法への反逆だが、主君に対する敬愛の情は賞賛されるべきである。江戸庶民の納得を得るためにも無罪放免とすべきである。

問9 下線部(f)に関連して、本居宣長の言葉として**適当でないもの**を、次の①～④の中から一つ選べ。[49]

- ① 神道はまた儒仏の説をとらず、神典に見えたとほりをもって説をたつるこそ神道なれ。
- ② 幽冥事を治めたまふ大神は、現世の報みをもたまひ、善行ありしはめぐみたまふ。
- ③ 古えの道を知らんとならば、古言をよく知りて古事記日本紀をよくよむべし。
- ④ 道は、もと学問をして知ることにあらず。生まれながらの真心なるぞ道にはありける。

問10 本居宣長の著作として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。[50]

- ① 古道大意 ② 自然真営道 ③ 玉勝間 ④ 古史伝